

## ・ヴェルディ・オペラと国家統一リソルジメント運動

### \*リソルジメント(Risorgimento)運動

イタリア語辞書では再び生じること、再興すること、甦ることとある。イタリアが近代国家として独立と統一を達成し得る為の政治的文化的文化運動である。

当時イタリアという名の国は存在せず、また地方の住人の文盲率は95%程であった。つまり、一般市民の住居が大都市であれば城壁の内であり、外の世間は判らない。田舎の人たちはわずかな周囲の世間のみであり、誰が政治をしているのか知らなかったし、占領下にあったことも多くの人々は知らなかった。彼ら庶民は糊口をしのぐ日々であり、政治どころではなかったのであろう。あらゆるイタリア人と同じくヴェルディは、オーストリア帝国に敵意を持ちイタリアの独立と統一を願って、愛国心を高揚させる作品を多く作曲した。

1848年フランスで起こった2月革命。ヴェルディはパリに住み、目の当たりにこの革命を体験している。そしてこの2月革命はヨーロッパ各地に飛び火する

第13曲目「海賊」(1848年初演)が終わり、次の第14作目「レニャーノの戦い」(1849年初演)、これで国家統一リソルジメント運動と共に作曲された愛国的作品が終わる。ヴェルディ36歳であった。

しかし、ヴェルディは10作目「マクベス」(初演1847年)については、ずっと体内に棘が刺さっていて、終生、改訂版を作曲し直すことを考えていた。そして、その後、オーケストレーション(管弦楽作曲法)を研究、音の重厚さ、楽器の持つ音の色彩化の不足部分の補強をした。1865年改訂版をパリ・リリック座で発表し、大成功するのである。

ヴェルディは1839年26歳で第1作目「オベルト」を作曲、周囲の並々ならぬ支援によりミラノ・スカラ座で初演することができた。第3作目「ナブッコ」(1842年初演)が、その時流に便乗、3幕2場で歌われる“わが想いよ、金色の翼に乗って……”失われた祖国への郷愁と哀惜の合唱曲と相まって、大成功理に終わるのだが、二人の子供と妻マルゲリータ、家族が次々と病気で亡くす大悲劇がヴェルディに襲い掛かり絶望の淵に……人生のスタート台に立ったところで過酷な現実に翻弄される。その後、悲しみ、苦しみを乗り越え、作曲を終え、初演大成功したことを妻マルゲリータと長女ヴィルジーニャそして長男イチリオの墓前で報告をした。

第4作目「イ・ロンバルディ」(1843年初演)で聴衆を熱狂させ、統一運動を大いに盛り上げてゆく。4幕1場での祖国解放を願っての合唱曲“おお主よ、生まれ故郷の家から……”聴衆は異常な狂騒、熱狂ぶりで、ヴェルディはこの愛国的オペラ2曲で聴衆が何を求めているのかははっきりと判ってきた。

爾来10年の歳月が流れる。1849年1月、第14作目「レニャーノの戦い」を作曲、ローマ・アルジェンティーナ劇場で初演されたのである。観客は<Viva Italia! …… Viva Verdi! ……>を連呼、歓喜し、国家統一リソルジメント運動の場となり、劇場は大騒ぎに。大成功裡に終わった。この初演から10か月前、1848年3月にはミラノ市民の勇気ある<決起の五日間>が勃発、オーストリア駐留軍を追っ払っている。